

くる。水がなくなったところで藪に突っ込んだと思ったら、10m程のやぶこぎで登山道に出た。
(記・ 5)

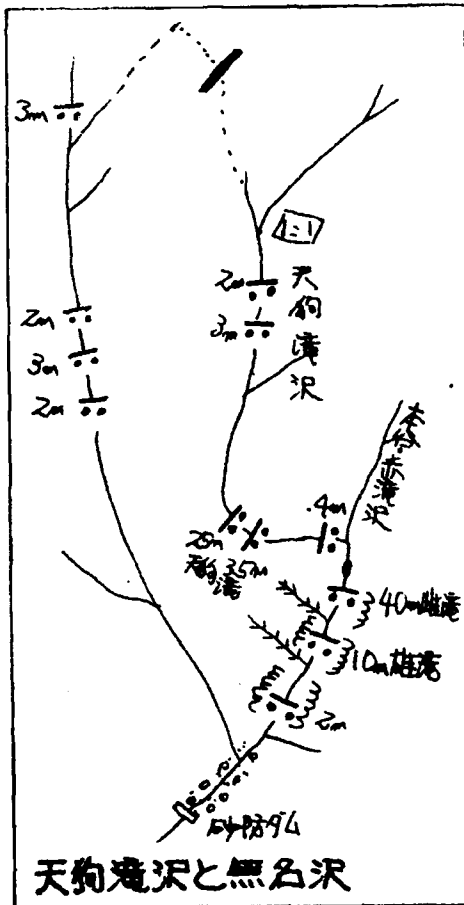
[タイム] 甲子温泉(6:35)→一里滝沢出合(7:00)→右俣分岐(8:00)→速行終了(10:10)→坊主沼避難小屋(10:45)

無名沢(下降)

1983年7月24日

L

天狗滝沢から尾根を越えて尾根1本東の無名沢の下降を開始する。最初の伏流が



小さなルンゼとなり、沢となる。

この沢はちょっと下った所に2m、3m、2mと小滝が続き、いずれもすべらないように注意して下る。あとは平凡な沢歩きで、約30分後に本谷に出る。(記

[タイム] 下降開始(10:30)→阿武隈川本流(11:05)

天狗滝沢

1983年7月24日

L

林道終点から沢に入る。ここから雄滝までは河原歩きで、滝はない。落差10mの雄滝の右岸を尾根まで約30分、やぶこぎをする。急登なので、結構のアルバイトだ。尾根を反対側を下ると天狗滝沢である。

この沢は、明るい本沢とは対照的で、薄暗く、陰気な感じの泥沢だ。眼前には約35mの三段になった天狗滝がある。岩肌は黒

っぽく、コケが生えており、すべりやすそうだ。

左岸をかなり高捲きしてから、天狗滝の落口を確かめようと覗いてみると、天狗滝に続いて25mもの滝があり、驚いた。結局、2つの滝を一気に捲くことになる。

さらに上流に進むと、3mと2mの小滝が2つあるだけで、徐々に水量も減り、水が冷たく感じられる。この先は、勾配のない小川のように、兩岸の木立がおおいかぶ

さっている。

水量比1:1の支流を過ぎ、次の支流との出合から左に少し進んだ所で、天狗滝沢は終わりとする。 (記・

[タイム] 林道終点(6:45)→雄滝(8:00)→天狗滝沢出合(9:00)→終了(10:00)

赤滝沢

1983年7月23日

L

第

甲子温泉脇から古い林道を最後まで歩いてから阿武隈川本谷に降りる。そこは砂防ダムの上であった。

しばらく河原を進む。左に支沢を分けると沢は右にカーブし、釜が出てくる。すぐ雄滝である。直登できないので、右岸の播きに入る。雌滝に降りないで、そのまま高播きをしてしまった。約1時間を経やす。ここはこんなに大きく播かないで、雄滝と雌滝の間のルンゼの下部を違って小さく播く方が時間を短縮できそうだ。私達は、尾根を乗り越え、天狗滝沢に下降する。

本沢に戻り小さな滝を越えると、本谷と赤滝沢の分岐となる。赤滝沢の方が3:2で水量が多い。

すぐに右カーブとなり、40m程ある特異な形をした赤滝にぶつかる。右岸の小沢を利用して高播く。次に傾斜のきついナメが出てくる。ナメの途中、左岸から15m程のナメ滝が入る。それを過ぎると沢は平凡となる。

10:45二俣となり、右俣に入る。水量は少なくなっている。地図を見ながら右へ右へと進む。11:00沢は覆れる。やぶごぎに入るが、右手から水の音が聞こえてくる。行ってみると、沢が入っている。ここを登る方が楽なので、その小沢を登る。3mの小滝が2つ出てくる。左岸から湧水も入っている。11:

